

## 河原先生への質問

講義は具体的な授業テーマを提案していただいております、大変参考になりました。  
授業の学習課題を考える上で参考にさせていただこうと思います。その上で質問です。

**Q1** 生徒がグループワーク等を行う際の、根拠となる資料はどのように提示するべきでしょうか。三枝先生のまとめにもありましたが、指導者が示す資料から「選択・判断」するだけではなく、生徒自身が根拠となる情報を収集・整理・選択する場面が必要と思います。「フラワーロス」「フィリピン人介護福祉士候補生」に関しても、調査することでさまざまな資料が出てくると思いますが、どのように生徒が調査する機会を確保するか教えていただけるとありがたいです。

**A** 授業時間に制約のある中、生徒自身が情報を収集する場面は、そう多くはありません。私の授業の基本的な流れは、生徒が「当事者性」「切実性」をもつネタを提示し、知識や概念の習得から思考・判断が揺れる事実や資料を示し、意見交換を行うというのが通常です。

ただ、年間数回は生徒が自分の主張を根拠づける資料を探し、討論する授業をつくっています。基本、「紙上討論」を数回行い、賛否に分かれ議論する形態です。

具体的には「非正規労働者の失業は自己責任か政治の責任か？」などのテーマで実践しました。他には「自衛隊の海外派遣の是非を問う」というテーマでパネルディスカッションをしたこともあります。この議論では、生徒が根拠になる資料等を検索したり取材をしたりしています。取材では各政党に手紙を出したこともありましたが、1政党以外はすべて返却されてきました。

**Q2** 「多面的・多角的」に関して、三枝先生のまとめでは「複数の視点」「複数の立場」とありました。河原先生のご講義では「感性」「知性」とおっしゃっていましたが、もう少し評価にも活用できるよう「感性」と「知性」について詳しく教えていただけるとありがたいです。

**A** 基本「社会的論争」問題の授業に特化しこの言葉を使っています。「感性」は「おかしい」「びっくり」「うそっ!」「たいへん」などのワードに見られるような「感性的認識」です。授業では「一枚の写真」「モノ」「ペアでのワーク」などを使った、初発の「感想」と言ってもいいかと思っています。

別の言葉でいえば、他人事である事実を自分事としてとらえる工夫などです。その後の授業は、「対話的で深い学び」が軸になります。認識を揺さぶり、矛盾や対立を生む資料や発問、生徒の意見などとの葛藤から「理性的認識」を目指します。教師の立ち位置は「少数派」の意見です。

評価については、毎回、定期テストで「パフォーマンス課題」を出題しています。ただ、私は「態度」については早急に評価すべきではないと考えています。中学生になると、教師が要求する答えを付度する内容を心得ています。採点の基準は科学的な「根拠」です。とくに、ループリックはつくっていません

Q3 コロナをテーマに授業を計画すると、コロナに感染した生徒、あるいは家族が感染した生徒、飲食業界に関わり苦境にある保護者など、コロナ禍において苦勞している人々が頭に浮かび、なかなか授業化できません。現実苦しんでいる方々を傷つけないテーマ設定について、ヒントをいただけるとありがたいです。"

A 最近開発したコロナ授業は「命の格差とワクチン知的財産権」と「コロナ禍と同調圧力」です。こちらについては近日経済教育ネットワークのホームページで教材を公開いたします。

Q4 新学習指導要領では、授業改善が求められ（特に高校）主体的に学習に取り組む態度の評価の観点から、内容のまとまりでの単元設定、見通しと振り返りの場面設定が必要とされていると思います。河原先生のネタの授業では、どのようなまとまりで単元構成を行い、見通しと振り返りを行ったか知りたいです。講義では、どうしても単発の授業でのネタという印象を抱いてしまいました。先生が実践された単元パッケージも示していただけると幸いです。そして、「深い学習」へのアプローチとして、どのようなことを行っているかも気になりました。また、学力差のない授業の達成のために、ネタ以外にされている点がありましたら知りたいのでよろしくをお願いします。

本質的な質問ありがとうございます。今後の実践や講演の在り方を示唆していただける内容だと考えます。「評価の観点から、内容のまとまりでの単元設定」は大事な視点です。大単元の課題設定をおこない、それにより態度ふくめた評価を行う視点だと判断しました。具体例として「労働」の単元を紹介します。大単元は「非正規労働者の失業は自己責任か政治の貧困か」です。指導計画は、①労働と雇用②好景気と不景気③税金と増える国の借金④マイクロディベート「大きな政府か小さい政府か」⑤年金は大丈夫か⑥ワークショップ「非正規労働者」⑦クラス討論会「非正規労働者の失業は自己責任か政治の貧困か？」の7時間で行い、パフォーマンス課題を出題し、評価する流れです。①②③⑤の授業は、基本ネタを大切にしています。⑥は「椅子取りゲーム」で失業を体感する授業です。

「深い学び」にむけたアプローチについては、単元により多様な「思考ツール」や「ゲーム」を使っています。例をあげれば「マイクロディベート」「ダイヤモンドランキング」「ツールミン」「KJ法」「数直線」「マトリクス」「ジグソー」「パネルディスカッション」「マンダラチャート」「ウェビング」などです。どの方法を使えば、「深まるか」という点を意識しています。例えば「夫婦別姓」などは「マイクロディベート」、「買い物難民の解決」は「ジグソー」などです。

「ネタ以外で学力差のない授業達成の方法」ですが「クイズ」「ゲーム」や上記「授業方法」です。「株式売買ゲーム」や「円高円安ゲーム」は学力差の逆転を生みます。また「クイズ」は、単に「知識」を問うのではなく、「意外性」のある「問い」が大切だと考えます。